研究部だより

研究主題
学びたい気持ちを高め、夢中になって取り組む姿を目指す授業づくり
ーキャリア・パスポート「未来へのスケッチ」の活用を通してー

令和6年7月発行　ＮＯ．６

中学部　全校授業研究会実施

中学部2年の職業・家庭科で全校授業研究会が行われました。対面参加者とオンデマンド配信参加者を合わせて２５名の参加がありました。今回は全校授業研究会の様子についてお伝えします。

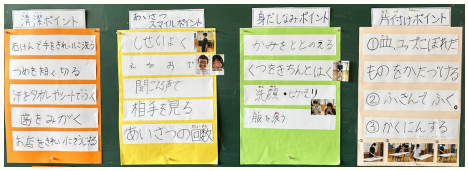
中学部２年　やってみよう！接客の仕事①

＜未来へのスケッチ×授業づくりのつながり＞

生徒たちは「未来へのスケッチ」に「働いてお金を稼ぎたい」や「おいしいものが食べたい」「お母さんのような役割（料理など）をしたい」と記入し、その思いや願いを受け、生活単元学習ではピザ屋さんの開店に向けた学習をしている。職業分野では、開店時に必要となる接客を主に学習し「中２接客のポイント」を作りあげていく。このポイントは、生活単元学習で実践し、お客さんからの評価を受けて、お客さんとの関わり方を改善していく。

＜授業者のしかけ＞

学習したことを発揮できる場面の設定
～生活単元学習との学習内容の関連付け～



＜生徒の様子＞

・生活単元学習のピザ屋さんで、お客さんに喜んでもらいたい、笑顔になってもらいたいという気持ちをもち、接客で大切なことを考えて友達に伝えたり、自分たちで考えたポイントを活用しながら水出しのロールプレイに参加したりした。また、授業で考えたポイントを実生活の中で活用する姿も見られた。職業で考えた接客のポイントを活用して、接客することを楽しみにしている。

＜授業者のしかけ＞

ＩＣＴ機器やアプリケーションの活用
～苦手の克服や思いを伝え合うために～

＜生徒の様子＞

・「笑顔」を意識できるように、「スマレジ・タイムカード」を使用して、スマイルチェックをした。始めは、笑顔を見せることを苦手としていたが、回数を重ねる毎に、自分からタブレット端末の前に行き、笑顔を見せるようになった。また、グループの話合いでは、オンライン掲示板アプリ「Padlet」を使いグループの意見をタブレット端末で記入し、テレビに映し出されることで、それを参考にしながらロールプレイに取り組んだ。振り返りでは、お互いのグループの意見を見比べて接客のポイントづくりをすることができた。

＜授業者のしかけ＞

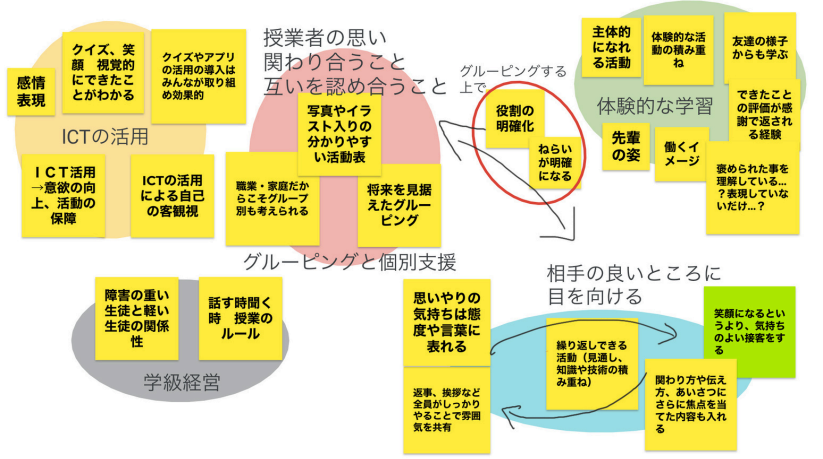
友達のよさに気付いたり、意見を伝え合えたりする小グループの編成
～友達のよさや頑張り認め合う姿を目指して～

＜生徒の様子＞

・４～５人の小グループを編成したことで、自分の考えや意見を積極的に伝えたり、ロールプレイ後に友達のよかったところを伝えたりすることができた。また、授業を重ねることで、友達の良いところに気付き、「〇〇さんがこぼさずにお茶を運んでいてすごかったです」などと、具体的に伝える姿が増えていった。

研究会の協議から

障害の重い生徒の職業分野についての効果的な学習について



【協議で話題になった主な内容】
- みんなで同じ活動ではなく、実態に応じて活動内容を工夫してもよいのではないか。
- 体験的な活動を繰り返し行うことで定着するのではないか。
- 職業・家庭科と生活単元学習のつながりが見られ、効果的な指導方法なのではないか。

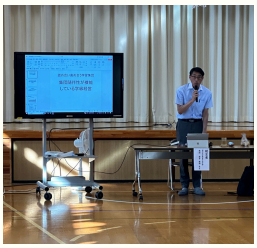
【今後に向けて】
- 喜ばれる経験の積み重ねをし、実際の体験活動の時間を確保し、体験から学ぶようにする。
- 自分でも「やればできる」という気持ちを大切にしたい。
- 多様な他者から認められる、喜ばれる経験から働くことへの前向きな気持ちにつなげたい。
- 振り返りがしやすく、生徒の分かりやすい言葉を使いながら学習を進めていきたい。

講評　秋田大学教育文化学部　教授　藤井　慶博先生

認め合い高め合う学習集団　集団随伴性が機能している学級経営
（集団として目標を設定し、集団としての機能を活用しつつ、一人一人のパフォーマンスを高めていくこと）
- 今回の学年は集団随伴性が機能しており、互いに支え合っているのが印象的であった。

教科別の指導と合わせた指導　知識・技能と実践の往還
- 今日の授業はそれぞれの役割が明確化されていた。教科別の指導では知識や技能を習得、各教科等を合わせた指導ではそれを活用し、それらを繰り返しながら高めていくのがよい。今回はそれができていたと感じる。

人に感謝される体験活動が自己有用感を高める
- 人に感謝される体験を組み合わせて年間指導計画が作成されていた。日本人は人生の満足感が世界的と比べて低くウェルビーイングという考えが注目されてきている。自分の楽しい〇〇が周りの人や環境に向くこと。今回の授業もウェルビーイングの進化にあてはまっていた。

＜授業について＞
- スマイルチェックの即時評価がよかった。自分の顔は自分で理解できていない。それを見える化して即時評価をしていた。接客クイズでは 話合いで情報の共有がなされていた。
- 教室内に今までの学びの履歴があり活用できる環境であったのがよかった。
- 予測してやってみる。そしてその結果必要となったポイントを整理して導き出す、という授業展開がよく、とても考えられていた。
- 学校での学びが他の場面で見られるようになってきている。生活の中で生かせるようになったとのことだったが、実際の生活のエピソードを丁寧に集めて評価していてよい。

＜改善点＞
- 本授業の目標設定は行動目標型、レッツ型の目標だった。それに対して振り返りは課題解決型。いわゆるハウトウ型のもの。水出しのポイントを覚えるのか、発見するのかが曖昧であった。めあてと振り返りが若干ずれていた。問いの焦点化ができればよかった。
- 授業展開はよかったが、活動の中で予測した他に、新たな発見があったのかどうか。そこが少なかったのでは。その理由として、予測した時点の生徒のレベルが想定より高かったこと、コップにあふれるほど水を入れた場面でそれをポイントとしなかったこと、氷を入れた際の水滴の処理など新たな発見が得られればさらによくなったのではないか。
- アクティブラーニングについて。体を動かして学ぶ、という点で動きの部分では発揮されていたが、静の中で脳がフル回転するようなアクティブラーニングもあればよかった。自分で気付いて動ける生徒もいたので、そこを深めると授業をブラッシュアップできると思う。